

「備北商工会地区」景気動向分析レポート 令和4年7月～9月期

《調査目的》

「伴走型小規模事業者支援推進事業」の一環として管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施。その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対して提供するものです。

《調査概要》

対象期間：令和4年7月～9月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

【産業全体】

今期の管内産業全体景況は前期（令和4年4～6月）の景況と比べるとおおむね横ばいである。経済状況はコロナの行動規制の緩和などにより回復傾向にあると思われる。資源価格の上昇や円安の進行にともなう物価上昇の影響が様々な消費物に及び、経営コストの上昇が大きな課題となってきた。

【製造業】

原材料価格の上昇によるコスト上昇を販売価格に転嫁できていない事業所が多い。離職者が一定数あり、雇用についてが課題である。製品（部品）を卸しているメーカーの輸出が好調で、一部売上が3～4倍になる製品（部品）があり、製造業全体的に徐々に売上が戻りつつあると思われる。

【建設業】

多くの建設資材は海外からの輸入品であり、資材調達コストが上がり、燃料が大幅に上昇している。そのため、当初の見積りより実際かかった費用が多くかかったケースが増えている印象である。今後はコスト上昇分を見積りに反映する必要があるが、実際は利益率の低い仕事を取らざるを得ない事業者も多くないのではと思われる。

【小売業】

新型コロナウイルス感染症の行動制限の緩和から徐々に消費活動が上昇傾向に移行したものの、外出しないことに慣れ、買物は最低限の必需品のみの状況である。加えてウクライナ情勢や円安の影響で電気・ガスなどの管理費や仕入価格の高騰している。これに係るランニングコストの上昇分までは販売価格へ転嫁しきれず利益率が悪化している。

【サービス業】

現状では、料金の値上げをしている事業所はほとんどなく、なかなか反映すること事態が困難であると思われる。宿泊業においては、前年と比べると客足が戻りつつある。「GoToトラベル」や「やっば広島じゃ割」が追い風になっているが、新型コロナ第7波による感染者の増加で利用キャンセルなどの影響により売上が伸び悩んでいる。

産業全体の業況

業況DI値（前期比） ※商工会地域のみ
（前期）（今期）

	R4.4～6	R4.7～9	前期との比較
備北	-38.5	-40.0	↘
広島県	-16.2	-19.5	↘

DIとは Diffusion Index（景気動向指数）の略。
各調査項目について、増加（好転）企業割合から、減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
DIがプラス（+）なら………強気（楽観）、上昇機運
DIがマイナス（-）なら………弱気（悲観）、低下機運

広島県の主要景況項目の推移（前期比）

【製造業】	製造業 DI	（前期）	（今期）	
	主要項目	R4.4～6	R4.7～9	前期との比較
	売上額	8.9	-4.4	↘
	原材料仕入単価	76.7	85.7	↗
	採算	-18.2	-20.4	↘
	資金繰り	-13.7	-15.5	↘

【小売業】	小売業 DI	（前期）	（今期）	
	主要項目	R4.4～6	R4.7～9	前期との比較
	売上額	-27.2	-25.4	↗
	商品仕入単価	68.6	74.7	↗
	採算	-37.7	-36.2	↗
	資金繰り	-27.5	-27.1	→

【建設業】	建設業 DI	（前期）	（今期）	
	主要項目	R4.4～6	R4.7～9	前期との比較
	売上額（完成工事額）	-24.0	-12.5	↗
	材料仕入単価	78.2	72.3	↘
	採算	-29.7	-31.9	↘
	資金繰り	-19.2	-2.1	↗

【サービス業】	サービス業 DI	（前期）	（今期）	
	主要項目	R4.4～6	R4.7～9	前期との比較
	売上額	-5.9	-10.4	↘
	材料等仕入単価	62.1	62.2	→
	採算	-33.3	-36.3	↘
	資金繰り	-13.8	-21.9	↘